

さらなる活発な地域活動を支援

コミュニティ助成事業

(財)自治総合センターでは、全国自治宝くじの社会貢献広報事業として、コミュニティ助成活動を推進し、住民福祉の向上を図るため「コミュニティ助成事業」を実施しています。久米島町では令和元年度、この事業を活用して西銘戸主会(字西銘)に自治会備品一式(テーブル、イス、音響セット、エイサー用品、テント等)を整備しました。

字西銘では今後も地域の伝統文化を次世代に継承するとともに、地域行事を活性化させ地域コミュニティの維持と強化を図ります。



西銘老人クラブの「第56回沖縄タイムス教育賞」受賞を振り返って 子供達の「ゆとりと情操教育」に欠かせない老人パワーに乾杯

記 吉濱 秀彦

(在沖三島郷友会 事務局長)

詩人、室生犀星(むろつさいせい)は詠つ。「ふるさと遠きにありて思ふもの」と。なんと温もりを感じさせる詩なのでしょう。

「故郷久米島」は、那覇から約100km西方に在る。

そこは、感受性旺盛な幼少期を温かく包み込み、育み癒やしてくれた地。

那覇で暮らすこと40年余。諸般の事情で帰省は容易でない。故郷を思い、時にこの詩を口ずさむ。

辞書によると「故郷(ふるさと)」は、「自分が生まれ、育ったなじみ深い土地」とあります。

嬉しくて自慢したい事があり、この際、この地と人を褒めるため文書を認めることにしました。

心の奥に宿る故郷、久米島。忘れてはならないのは、生み育ててくれた両親、励ましを受けた地域の人々や学び舎等へのご恩。

思い浮かべるのは、母に手を引かれて行った小学校の入学式、恒例行事の学事奨励会等の情景。

学校で先生に学び、地域の爺さんに逞しさを、婆さんに優しさ作法、大人たちと

の日常生活に必要な農作業やイマール、野遊び等の体験を通して成長しました。幼少期の体験は生涯生き続けるものです。あの頃から半世紀ほど経過しました。

だが、今も学校現場や地域で子どもたちに昔遊びや農作業体験を通して、学ばしさを情熱的に伝える活動をしている人達が居ます。しかも久米島に居るのです。

その人達に関し新聞に掲載された記事の内容や調べたことを紹介します。

今年の3月18日、県内の教育分野で研究・実践に顕著な成績を上げた個人、団体を顕彰する「第56回沖縄タイムス教育賞」受賞者の贈呈式・祝賀会が那覇市のホテルで開催されました。今回、久米島の「西銘老人クラブ」が「社会教育部門」受賞賞という快挙を成し遂げ、町長はじめ教育長・校長先生・郷友関係者など多数が駆け付け祝福しました。

最高90歳、平均83歳。豊かな農村、西銘で育った老人たちの活動を掻い摘まんで紹介します。

2006年から町立大岳小学校の子どもたちと昔遊びで交流開始。2008年から「放課後子ども教室」に。以来11年間、少子高齢化が進む島で、学校を起点に世代間交流を通して地域の絆を結ぶ。

昔遊びは、皆でのおもちゃの手作り。竹とんぼや紙鉄砲、水鉄砲、こま、アダン葉の風車などを一緒に作り、遊び方を手ほどきする。「ゆんたく」や「遊び」ながらの作業は、コミュニケーション力を向上させ、協同する楽しさや大らかな性格を育てます。

受賞に関する選考委員長の講評は、1. 平均年齢80歳以上の人生経験豊かな高齢者と子どもたちが日常的に接することで、知識や地域の伝統が脈々と引き継がれている姿は、他の地域の模範になり高い評価を受

けた。2. 老人クラブの受賞は、教育賞の半世紀余の歴史の中でも初めてであり、地域の高齢者と子どもたちの触れ合いが減少している昨今の社会の中で注目される取り組みだ。たくさん示唆を与えてくれるものだと思う。と同クラブを賞賛しました。地域住民の民度の高さを感じました。

今回の受賞は、学校・町行政機関・クラブ・地域の連携が有効に働いたと思います。大岳小学校側が活動を評価し応募申請に着手。申請には証明資料の添付は必須です。同クラブは、活動内容を詳細に記録しており、同賞の選考の際、その資料の存在が奏功しました。

祝賀会で受賞を喜び合う人々を見て、この快挙と老人パワーにあらためてエールを送りました。

関係者が大勢集つた会場は、故郷が「持続可能な魅力有る島」へと進む空気で包まれ「しまくうとうば」と「祝杯」を交わし盛り上がりました。

老人たちの「温もり有る活動」は、次の世代に確実に継承されて行きます。

人口減少の歯止めという課題を抱える故郷ですが、なじみ深い土地で生まれ育ち貴重な体験をした子どもたちが、必ずや課題解決の糸口を見つけてくれるものと信じます。大

事業の成就に乾杯。



写真 沖縄タイムス受賞式写真